

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●エリザベス女王杯でジェラルディーナがG I初制覇を果たす

11月13日(日)に行われたエリザベス女王杯(G I)では、ジェラルディーナ(牝4歳／栗東・齊藤崇史厩舎)が優勝、G I初制覇を果たしました。なお写真判定の末、ウインマリリンとライラックが2着同着。G Iでの2着同着は、グレード制が導入された1984年以降では初めてのこととなります。

●川端海翼騎手がJRA初勝利をあげる

11月13日(日)の5回阪神4日・第2レースではエーティースピカが1着となり、同馬に騎乗した川端海翼騎手(栗東・浜田多実雄厩舎)は、JRA初勝利(78戦目)をあげました。

●松山弘平騎手がJRA年間100勝を達成

11月13日(日)の5回阪神4日・第6レースではサンライズアリオンが1着となり、同馬に騎乗した松山弘平騎手(栗東・フリー)は、本年4人目、自身にとっては3年連続3回目となるJRA年間100勝を達成しました。

●アルクトスとマカヒキの競走馬登録抹消

2020年・2021年マイルチャンピオンシップ南部杯(Jpn I)などの勝ち馬アルクトス(牡7歳／美浦・栗田徹厩舎)は、10月14日(金)付で競走馬登録を抹消されました。JRA通算成績18戦7勝・地方6戦3勝で、今後は北海道新冠町の優駿スタリオンステーションで種牡馬となる予定です。2016年東京優駿(日本ダービー・G I)などの勝ち馬マカヒキ(牡9歳／栗東・友道康夫厩舎)は、10月26日(水)付で競走馬登録を抹消されました。JRA通算成績26戦5勝・海外2戦1勝で、今後は北海道新ひだか町のレックススタッドで種牡馬となる予定です。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●鎌倉記念(川崎)は浦和のヒーローコール【各地の主要2歳重賞】

鎌倉記念(10月12日、川崎、1500m)は、2番手を追走したヒーローコール(牡、父ホッコータルマエ)が直線に入って間もなく逃げたスペシャルエックス(北海道)を捉え、単勝1.6倍の支持に応えていました。知床賞(10月2日、盛岡、1400m)は、3番手を進んだ2番人気のラビュリントス(牝、父キンシャサノキセキ)がゴール寸前で差し切り勝ち。佐賀デビュー馬限定戦の九州ジュニアチャンピオン(10月2日、佐賀、1400m)は、中団から差を詰めた1番人気のイチノコマチ(牡、父パイロ)が3頭横一線の接戦を制しています。ブロッサムC(10月4日、門別、1700m、牝馬)は、4、5番手から4コーナー手前で抜け出した単勝1.7倍で断然人気のスギノプリンセス(父ダンカーン)が3馬身差の楽勝を収めました。

●ケイアイパープルらが参戦、11月23日の浦和記念(浦和)

浦和記念(Jpn II、11月23日、浦和、2000m)は、Jpn III 2勝馬ケイアイパープルが中心、以下クリノドラゴン、ラーゴム、スワーヴアラミス(大井)、ランリョウオー(浦和)、タイセイドレフォン、アイオライトの順に有力視されます。

●11月24日の兵庫ジュニアグランプリは無敗馬トレドが有力

兵庫ジュニアグランプリ(Jpn II、2歳、11月24日、園田、1400m)は、ダートで2戦2勝のトレドが最有力候補も、オマツリオトコ、マルカラピッドも侮れず、エコロアイ、スペシャルエックス(北海道)、ラブミーモナコまでが争覇圏内と考えられます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●カルティエ賞～欧州年度代表馬にバーアイード

欧州競馬の年度表彰制度であるカルティエ賞の受賞人馬が、現地11月9日に発表されました。年度代表馬に輝いたのはイギリスのバーアイード(牡4歳、父シーザースターズ、W.ハガス厩舎)。引退レースのG 1英チャンピオンSこそ4着に敗れましたが、それまで5月のロッキンジS(芝1600m)、6月のクイーンアンS(芝1600m)、7月のサセックスS(芝1600m)、そして6馬身半差で圧勝した8月の英インターナショナルS(芝2050m)とG 1を4連勝(前年から数えればG 1・6連勝)しました。来春からイギリスのナネリースタッドで種牡馬入りします(交配料は8万ポンド=約1296万円／1ポンド162円で換算)。なお、8月のG 1モルニ賞(芝1200m)と9月のG 1ミドルパークS(芝1200m)を連勝して、最優秀2歳牡馬に選ばれたアイルランドのブラックビアド(牡2歳、父ノーネイネヴァー、A.オブライエン厩舎)は10月の調教中に骨折したことで引退、種牡馬入りが決定。来春からアイルランドのクールモアスタッドで供用されます(交配料2万5000ユーロ=約355万円／1ユーロ142円で換算)。